

雪深き弥栄より

そのいじ

今年も弥栄は、白一色の世界となりました。どこまでも続く雪景色。

こんこんと雪降る中で、われら弥栄を郷共同体も、あの人里離れた世目に、ひっそりと、しかし確実に生き延びているのです。そう、弥栄きつての勇敢な男、山師が、たった一人、犬のチュー子と共に、にわとり

の世話、卵売りと、毎日寒さと戦いながら頑張っているのです。

出かせぎの大阪行きオニ陸が下山して、丸一ヶ月。明けても暮れても雪、雪、雪。その一人暮らしのせつなさ

さは、今、除々に高まりつつあろうとしていきます。雪は、かなり積もり

つつどうバイリは乗る。ここをきく。ほかなさを、切々と訴える心の詩を

毎日、あの山道を、四時間以上もかけて、百個以上の卵を運ぶしんどさ。あなたに想像できまっしやるか？

今、親鶏は25個ぐらひ、ヒナ鶏は80個ぐらひの卵を産み続けているのです。が、さすがに弥栄の寒さは身に

しみみしく、産卵率は減っておりま

す。親鶏は、気がくるったのか、卵のからを割り始めたのであります。

鶏舎も、御存知の通り、トタン屋根、雪が積もり過ぎると、いつ押しつぶされることやら、山師の雪降ろし

しんどい仕事です。

では次に、山師の発狂シリーズオニ陸の手紙の中から、一人暮らしの

ほかなさを、切々と訴える心の詩を

お読み下さい。

『心もよう』 3/4拍子

タン・タン・タン・タン・タン

雪が降る降る雪が降る

今日も弥栄に雪が降る

卵二百個ひっかつぎ

今日は長安、明日小角

足のさきことの冷たさよ

もうけの少ない哀しさよ

心の平衡ゆがみ出し

日常リズムは狂い出す

右30°やや下方、ジャンプ。一番10cm

雪にころがるあと3cm

おちを言える人もなく、

タバコの火をかす人もない

くしゃみをすれば、木枯しが吹き

鼻をすすれば、雪が降る

ネズミはネコに動じない

農産物はしょうびんではない

—〈農業開発技術者協会〉から学ぶこと—

1

富山県下の幾村(小原)を根拠地として、農作物づくりに励む10人程の集団がある。その名を「農業開発技術者協会」といい、リーダー格の一人、足立原貴氏をのぞくと、全員20代の青年(うち女性2人)である。彼らは県下5ヶ所(12校)に分散し、小原では稲作と乳牛の飼育、宅配センターでは農作物の家庭配達、それぞれが役割を分担している。

協会設立のねらいを足立原氏は、

「社会における農業生産のための活動機関をつくることである。今後の農業の発展を考えた時、個人によって農業が引きつがれるのではなく、機関によって、これからの農業は代行されるべきである」とし、また、「食糧の大量生産に反対し、流通機構の変革を目ざしつつ協会の農作業を通じて、食料が本来のものに立ち返る努力をしたい」と考えている。

2

次に「月刊エコノミスト」(73年8月号)に掲載された山口富夫氏の「農業開発技術者協会の紹介文から、この集団の運動と考へ方の概略をつかんでみよう。」

協会の主たる機能とその具体的な活動内容は次の2点に大別できる。一つは点在する耕作地での農作物の生産と酪農。もう一つは、そこでと

れた生産物と一般家庭に届ける宅配である。その中でも注目すべき点は、彼らの「宅配V」すなわち直販活動の方法とその考へ方である。

各耕作地でとれた農作物は、一たん富山市のほづれにある「宅配センターV」に集められ、そこから各家庭に届けられる。協会は、これらの家庭を2、3戸あるいは十数戸のグループに組織し、彼らを「会員」として、契約を結び、協会のメンバーが各家庭に定期的に(現在は隔月に)野菜を届け、いくという配達の方法である。(現在約30戸と契約) 各家庭からうけとるお金は、「野菜代金」としてではなく、農作物を生産し届ける過程までの「機能代」としてうけとっている。すなわち、農作物を商品化することと拒否しているのである。これは、驚くべき理想であり、驚くべき成果であ

る。機能代(入会金二〇〇円十世帯一ヶ月三、六〇円、小世帯二、八〇円)、また隔日に届けられる野菜に因りて、あらかじの月初めに、その月供給可能な野菜の種類を明記したへ宅配カレンターVなるものを各家庭に届けている。

3

協会のその他の活動には、小原で毎年7・8月各二回、4日間にわたって開催される“人と土の大学”がある。

農作業に汗を流し、互いに学び合う中から、自然や生活の様々な社会の価値を考へてゆくための、文明批評の場であり、実践の場として設定されている。

以上、簡単に農業開発技術者協会の概略を述べてきた。この運動とわ

れわれの弥栄之郷共同体の運動を対比して考へた時、われわれが掲げている4つの開平方針のうちへ①農村のコミュニケーション化Vを除いたへ②生き伸びるための都市での運動Vへ③自前の流通機構の確立Vへ④コミュニケーション学校Vの3点に因りては、類似した運動形態をもっている。とりわけその中でも、へ②都市での運動Vは、われわれにあっては、今年最も十分に終った分野であり、彼らの運動から多くの学ぶべき点、ユニークな運動形態をみとることができるといふこと、またまだ多くの未知な点、知りた点があり、近々訪問して、さらに交流を深め、学びたいと思う。

(五十嵐 常井)

いりりばに

◎今号から「コミュニケーション・ヒロバ」という名前を再出発することになった。百人委の名称と同じく、「備北」との混同を避けるためと、より親しみやすい名前をと、皆で考へた名です。

◎弥栄からの出張組でほとんど一の新間をつくった。発行の予定より大幅に遅れてしまったけれど、仕事で疲れて帰ってから、夜遅くまでかかるミーティングを終え、眠れぬところりながら、原稿を書き、かりかりとした、血と汗の結晶である。「桜南紙の発行」を活動としていた、百人委のメンバーよ、どこへ行ったのか？

◎紙不足のため、今号はガラ紙になりました。どなたか中質紙判紙手に入れましたか？

1.

農業は自然と人間、自然と社会との関係の中にある。人間は自然の一部である。人間が生活していること自体自然である。

原始、狩猟や野生の植物の採取によって生活していた人は自分と自然とを意識することなくひとつのものとしていた。その人間が、

土を耕し、種をまくことによって自然に働きかけること

とを始めた。そして働きかける対象を意識することで自我が生まれた。

自然の一部でありながら意識の中で自然をも包んでしまつ。そんな自然

・自我の意識によって、ヒトが人間となった始まりが農業のなかにある。

2.

現在、自然と人間の関係はゆがめられている。種をまくということが

今の社会の中では意識された人間の行為ではなくなっている。つまり、

農業は全く他の産業と同じように、生産物を商品としてしか扱えず、そんな農作業は、いくら土に親しみ美しい自然のなかにいようと自己満足でしかない。私たちが社会の中に生きていく以上、自然と個人の間に社

私的な農業論

はじめに

会があることを拒めない。

3.

大昔、単細胞の生物から多細胞の

生物へ進化した過程と同じようなこととが、個人と社会の関係でもいえる。

細胞が合併すること、それだけの機能をはたしているうちに専門化し

個々の間にもつながりが生まれ、一つの新しい生命ができた。そして、

かつて一つであったものが、一つでは生命を維持できなくなった。

今の人間社会は、高度に発達した分業によって成り立っている。ひとりかひとつの仕事を受け持つことばその仕事を深く掘り下げられ、生産率もよい。しかし、精神労働は労働にまで別れると、個人は自分

が生活していることすら意識できなくなっていく。生物の進化と違って、人間は動植物と

はすべし、意識の上であくまで個人は個人であることが必要だと思つ

4.

現在、農業は全く軽視されている。

資本の効率だけで他の産業とくらべると、農業は広大な土地を必要とするし、はるかに効率は悪い。でも

自然生態系、食糧自給ののんびりとした農業は絶対必要である。いくらか分業

が進んでも、自分が食べて生きてい
ることぐらいは意識できるはずだ、

単に言葉を讀み、工業を否定す
るものではない。どちらにも通じて
言えることは、人間を無視した利潤
追求の社会の歯車にまわされてい
ることである。その歯車をまわしてい
るのは、国々の行為を自分のものと
意識できなくなっている人間自身で
ある。

(野中篤子)

ふたれ節 ある日、

「お前、このごろふたれとんの
んとちゃうか」 「自分かしんとい
のんを隠してまでニコニコしてやあ
かんのんかし」 「しんどのんはあ
前だけちゃうわ、そやのにお前かが
とたれとったう一緒に仕事する奴か
よけいしんどのんや」 「ふー……」

「しんどのんに思ひやり共同性を發揮させて共同体やろ」

土地共有券運動

48年度中に目標24万円入!!

72年7月に24万円で買った弥栄之郷を皆んなのものにするために、1口100㎡
2,000円であなたも。今回、今助入(1口)、小浜節子(1口)、飯野和男(1口)、広河隆
一(5口)の名氏が 共有券運動に参加ありました。12月27日現在で 49人 115口
21万円集まりました。あと1万円です。

その他に、百人委員会では、弥栄之郷設立のために49.5万円の借金がある
のです。今の見通しでは、弥栄での収入から借金返済は当分できそうにもない
のです。お金ってやっぱり今はほしいのです。私個人の共同体イメージとしては
借金をしないで作る共同体を創りたいのです。(コン)

199~97 コミュン百人委員会会計報告

(担当 近藤ちゃん)

4収入

くりこし(%)おのり金)	40,134-
定期カンパ(8人) (植原・村松・岡子・志賀 林・大原・古後・ト)	23,000-
不定期カンパ(高瀬)	1,000-
定期購読料(9人) (高橋・岸田・奥村・振井 高井・今・千野・白川・栗)	5,300-
印刷インク使用料 岩田氏ヨリ	350-
	69,784-

12/27 現在残金 ￥170,74

支出

通信費(切手)	8,000-
封筒代	820-
田中氏葬式香料	2,050-
紙代	5,400-
車関係	10,100-
バッテリー取替等	1,400-
パンク修理	3,000-
ルーフキャリア	4,000-
税金	17,940-
ガソリン代	52,710-

(12)